

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2016 年 2 月 1 日 発行
(通巻 468 号)

現代座レポート No. 65

- ・戦後 70 年に考えたこと (1)
- ・武蔵野新田の歴史に「協同の心」を読む (2)
- ・『遠い空の下の故郷』 ハンセン病療養所に生きて (4)
- ・NPO 現代座を支える人々 第 22 回 池田春寿さん (5)
- ・現代座会館の仲間たち「バンビーノ」 (6)
- 「緑町ふれあいサロン」「夢さしの」「りんどうの会」
- ・活動日誌 (7)
- ・お知らせ (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

戦後 70 年に考えたこと なぜ戦争は止められないのか

木村 快

◆実際に戦時中の紙芝居を観て

昨年は戦後 70 年で、「昭和の子どもが伝えたいこと」という集まりを 2 日ずつ 4 回開いた。戦時中の紙芝居を当時のままに上演してみた。ほくも 80 歳になるので、自分の体験を少し話した。

* 『内は上演紙芝居作品』

第 1 回、『ブキテマ高地』、大東亜戦争開戦当初の戦果に熱狂する新聞や映画。

第 2 回、『奮へ日本少国民』、物資は欠乏、菓予も児童図書も皆無となる。初等教育は強い国民を育てる国民学校となる。

第 3 回、『櫛』『爪文字』。海外植民地のコドモたちのことを話す。終戦の前年、父は現地召集の補充兵として召集され、植民地に母子 6 人を残し、硫黄島で戦死。父の郷里広島は原爆で廃墟。どこへ行く。

第 4 回、『明朝一票』、昭和 17 年の総選挙で「一億国民」は戦争を進める独裁政権を生み出した。なぜなのか考える。



紙芝居『奮へ日本少国民』昭和 16 年、国民学校がスタート。



紙芝居『爪文字』。洞窟の中で全滅した部隊。兵士が爪で遺書を書く。



昭和 17 年総選挙のポスター。与党・翼賛協議会が独裁政権樹立。



1954 年に完成した原爆慰霊碑。1955 年に世界平和大会開催。



舞台『武蔵野の歌が聞こえる』飢えた農民が、協同の力を知り、大人も子供一緒に村づくり。

◆植民地育ちが感じた平和
ほくは戦後、広島を平和公園造成現場で働きながら成人した。原爆投下時の被爆死者 20 万人のうち 2 万人以上は朝鮮人だった。美しい公園をつくるために朝鮮人を弔う言葉は聞くことはない。平和は日本人だけのものだったのだろう。

◆異文化を恐れる日本人
習性を持つているようだ。

◆日本人はなぜ戦争を許すのか
日本人は顔の見える範囲だと優しく親切で、様々な本音を語り合うのに、その範囲を超えた場では黙り込んでしまう。本当はみんな戦争の進行には不安を持っていたが、おおよけの場では戦争支持者として振る舞った。

◆身近な協同文化を
文化の問題は個人的な努力だけでは対応できない。偉い人がテレビで語る話も大事だが、もっと身近な顔の見える範囲で、間違った意見も含めて平和の在り方を語り合い、異文化理解をすすめられないだろうか。小さくとも自立した協同の文化が生まれるはずだ。

その性質は現代の政治や大企業の現実で同様だ。上層部で決めたことは納得できなくても、黙って責任を預ける文化的

一昨年、昨年に引き続き、今年も協同をテーマにした『武蔵野の歌が聞こえる』を上演したいと思っている。

武蔵野新田の歴史に

協同の心を読む

木村 快

『武蔵野の歌が聞こえる』はこれまで17公演が行われ、観劇された方々から622通に及ぶ感想や批評をいただいている。多くは自分たちの街の歴史を初めて知ったという感動や激励だが、史実の誤解があるのではないかと、意見もいくつかあった。

川崎平右衛門プロジェクトは2010年2月に「自分たちの街の歴史を、広く市民に知って貰おう」という意図で始まった。そこで、提起された疑問に対して、私達なりの考え方を述べておきたいと思う。

この作品は史実に沿って構成されているが、従来の通説とは違った角度から史実を検討している。

◆描かれる時代を新田開発の時期に限定せず、大災害・大飢饉の連続した宝永から享保にかけての時代に設定。徳川吉宗、大岡忠相、平右衛門、三者とも大災害の現実と対処しながら人格を形成しているからである。

◆従って「享保の改革」は災害復興、元禄バブルからの幕府の自立を目指す性格を持つていたと考える。

◆「新田開発」は幕府にとっては単なる事業だが、過酷な不毛大地の開拓に従事した農民の視点で考える。

◆平右衛門は水害対策を担う村の指導者であり、常に協同を組織する役割を担っていた点を重視する。最先端の数学的知識と水利技術を駆使した実績がある。

◆作品のテーマは、幕府が失敗した新田開発を、なぜ回復させ、発展させることが出来たのかに置く。

1、史上最大の災害、大飢饉の連続した時代

武蔵野新田開発を担った川崎平右衛門の育った時代は、元禄大地震、宝永大地震、富士山の大噴火、浅間山の連続噴火による気候寒冷化で関東一帯の農業が大きなダメージを受け、飢饉、凶作が相次いだ時代である。

平右衛門は多摩郡押立村有力農家の跡継ぎとして、10歳のときに元禄大地震、14歳の時に宝永大地震と富士山大噴火、浅間山噴火を体験している。

元禄16年の大地震(M8.3)は関東地方で死者不明者6700人、被災戸数2800戸の大被害を出している。

その4年後は日本史上最大の宝永大地震(M8.6-9.0)が発生。太平洋沿岸は津波に襲われ、富士山の大噴火で多摩郡一帯は数十センチに及ぶ火山灰が降り積もったと記録されている。押立村近辺(現・府中市)でも発掘調査によると10センチ前後の降灰が推定され、火山灰を埋め立てた土坑が30地区で見られている。(『多摩のあゆみ』28号より)

江戸時代の経済は石高制であるが、その土台である水稲栽培は5ミリの降灰でも生産に大きな障害があるとされる。享保の改革ではこうした災害からの復興として新田開発が重視された。平右衛門が米作以外の代替作物として桃、梨、栗などの果実の研究に打ち込んだのもそのためと考えられる。

2、役人支配の新田はなぜ破綻したのか

火山灰の蓄積した武蔵野台は農耕には不適な地帯である。その不毛の地に新田を開発することは、農民に大変過酷な「開拓生活」を強いた。そのため、幕府の

役人による新田開発は17年たっても進捗せず、ついに元文3年から4年にかけての連続凶作では農民の離散が相次ぎ、壊滅状態に追い込まれる。

通説では平右衛門がこの崩壊した新田村を復興させたのは、利殖の秀才を発揮したからだという。府中市郷土の森博物館編の『代官川崎平右衛門』でも新田開発の成功を「このように代官所主導の下に積極的に資金運用する平右衛門の方法には、象洞(ぞうぼら) 販売で見た商人的利殖の才と、『貯める』ことで豊かになろうとする農民の発想とが、村役人として培ったリーダーシップで生かされたといえましょう」と締めくくられている。

だが私たちは、新田を復興させたのは利害的结合ではなく、平右衛門が農民本来の協同力を引き出した点にあると考えている。幕府の政策の失敗は、農民が農民としての力を発揮できる村の育成を軽視したからである。

農民は数で計れる存在ではない。新田村は各地から集まった経験の浅い寄せ集め農民である。村としての結束がないままに凶作に襲われると、離散せざるを得ない。新田開発の総責任者大岡忠相は役人による開発指導をあきらめ、百姓身分の平右衛門に実態の調査と開発の可能性を検討させる。大岡は平右衛門の何を信頼したのだろうか。商人的利殖の才能なのか、それとも水害対策を担う村のリーダーとしての調査能力と、村民に協同を実現させる力を持った人物と見たからなのか。

調査の結果、平右衛門は現状のままでの新田の回復は不可能だと判断し、まず農民自身が自立出来るよう、村民全体の協同作業による村づくりを進言する。

平右衛門は大人も子供も老人も一丸となった村づくりの喜びを実感させながら、支配型の管理から「養い料金」制度と呼ばれる自立した協同管理の仕組みへと転換

させ、村々に新しいリーダーの育成を図った。かくして、広大な82カ村の新田復興と開発は軌道に乗りはじめた。

3、平右衛門の象洞(ぞうぼら)販売

前記した「平右衛門の象洞販売で見せた商人的利殖の才」とは、江戸で痘瘡(とうそう・天然痘)が大流行したとき、幕府が飼育していた象をもてあましていることを知った平右衛門が、象の糞を予防薬として販売する許可を得て大儲けしたとの話が、残っているらしい。

痘瘡は治癒不可能な業病として恐れられていた。緒方洪庵が予防薬として牛痘種法を確立したのは1720年のも後のことである。幕閣でも対策を検討し、予防薬として牛糞を漢方薬にする白牛洞(はくぎゅうぼら)の検討もしており、象洞もそれに併せて試行したものと思われる。しかし、それは幕府の御殿医による判断を待たねばならず、町人の発意で進められたとは考えられない。

象洞の製造は平右衛門の発意ではなく、吉宗の側用人加納久通の意向であり、幕府財政逼迫のおり、大岡忠相が平右衛門に製造販売を依頼したと考える研究者もいる。幕府の依頼を受けて、平右衛門らは淀橋において製造したと言われている。(セミナー「川崎平右衛門とその時代」・野田政和氏)

4、平右衛門をどう見るか

私たちは「平右衛門がすすめた『養い料金』制度は協同の先駆であった」と主張した。これに対して、『『養い料金』制度は代官所で行われた指導であり、参加の自由や退会の自由を前提とする協同組合の先駆である

かのような表現は観客に誤解を与える」という批判が出ている。これは「代官所の指導だから百姓は否応なく従ったのであり、自発的な参加ではなかった」とする意見のように思われる。ここでもまた、新田開発の成功を平右衛門の商人的才覚で語るのか、それとも百姓の自立協同を促した結果と見るかが問われている。

私達は大岡が「新田開発の儀、平右衛門の心一盃に進めることを許す」と承認したのは、人間の営みを全面的にとらえる平右衛門の生き方を信頼したためと考える。

平右衛門の最大の功績は、百姓本来の協同の心を信頼し、それを自立した村の形に結実させ、文化として定着させたことにある。私達はそこに、江戸史における協同活動の源流を見る思いがするのである。

5、知られざる平右衛門の実像

◆協同を説く平右衛門

府中市で平右衛門の事績調査に努力された渡辺紀彦氏(故人)の著書『代官川崎平右衛門の事績』には教えられることが多かった。氏は古文書の解釈だけでなく、その背後の事情を調べるため、実際に現地を視察され、岐阜県穂積町史に残る記録を含め、聞き書きをまとめておられる。それによると、代官として美濃国(岐阜県)に赴任した平右衛門は、木曾川、長良川からの逆流水害を防ぐ水門の建造に取りかかる。だが、80に及ぶ輪中(支流で囲まれた小集落)は水門をどこに設置するかで利害が対立し、まとまらない。通説では平右衛門は「一日で説得した」ことになっているが、実は5年間にわたって農民の意見を聞き、協同事業とするよう説得をつづけている。全体でまとまった案は経費がかかり

すぎ、幕府からの資金は出なかったが、輪中一同は平右衛門を信頼し、結束して自費での建設に踏み切っている。

◆改革期が生んだ人材

商品経済が普及した元禄期は社会の腐敗が進み、人間本位の新しい思想が求められた時代であった。渡辺紀彦氏は伝聞として「(平右衛門)定孝は幼い時から学問を好み、暫時江戸に於て有名な漢学者、河村瑞賢、伊藤仁斎等に師事し、勉学した」と書いている。直接師事したとは考えられないが、当時の塾で形式化した儒学に人間的な見直しを求めた伊藤仁斎や、航路の調査と改革に貢献した瑞賢の思想は熱心に講義されていたと考えられる。人間性回復をめざす生き方と科学的な調査手法を学んだことは、少年に強い影響を与えたはずである。

平右衛門は物事を調査するとき、儒学の五常「仁・義・礼・智・信」を使って5段階に分類する習慣があった。治水を担う家に伝わった手法であろうが、儒学的モラルと高度の治水技術や数学的知識を身につけた平右衛門は、破綻しかかった石見(島根)銀山でも採掘法を改良し、協同のシステムを実現している。まさに享保の改革を進める徳川吉宗や大岡忠相が探し求めた人材であった。

6、市民感覚で歴史を見直せ

歴史からどのように教訓を学ぶかは時代によつて違う。高度成長期の利害中心社会の視点からすれば、平右衛門は目から鼻に抜ける利殖の商才を身につけた人物と見えただであろうが、震災からの復興もままならず、展望の見えない時代を迎え、今後予想される厳しい試練にどう対処すべきか思い悩む現代では、先人たちがどのように困難と闘ったのかをこそ学びたいものである。

『遠い空の下の故郷』 ハンセン病療養所に生きて



2015年11月17日（火）
伊那市人権同和教育講演会
9月の長野市善光寺の仏教婦人会、10月の松本市と安曇野市に続いて、11月は伊那市で公演しました。

伊那市は南信濃と呼ばれる地方を流れる天竜川沿いの街で、隣接する江戸時代の高遠藩の城下町高遠町と共に古い歴史を持つ街です。

伊那市では年に3回人権同和教育講演会を開いています。その第1回として企画してくださいました。会場は伊那市生涯学習センター、「いなっせ」の6階です。多

くの市民の方が参加して、熱心に聞いてくださいました。

この日は、地元のピアニスト、伊藤ゆかりさんに演奏していただきました。

伊藤さんは農業に従事しながら、この地方で合唱運動を進めておられる方です。こうして地元の音楽家に協力していただけることは、ただ地元の方々にハンセン病の歴史を知って貰うだけではなく、大事な創造活動を一緒に考え、一緒に努力する仲間になっていただけるわけですから、とても心強く、ありがたいことです。

（木下美智子）



2月28日（日曜日）

『遠い空の下の故郷』

現代座会館3Fで上演します。

詳細は8ページ

「遠い空の下の故郷」に参加して



伊藤ゆかり

二〇一五年十一月十七日、伊那市人権同和教育講座として『遠い空の下の故郷』が伊那市生涯学習センターホールで上演されました。木下美智子さんの語りに、私がピアノで参加させていただきました。

現代座の会員で、義姉の葛谷政子・栄一夫妻から誘われて、「はい」と返事をしたものの、どういふものなのかも知らず、不安がありました。折よく、九月に長野市善光寺で上演されると聞き、駆けつけました。木下さんの語りと松本真理子さんのアコーディオンに、終始涙が止まりませんでした。

実際に熊本と鹿児島島の療養所のみなさんと交流しながら生まれた台本、ハンセン病の元患者さんたちとの何回もの交流で本人になりきった語りには、深い悲しみと怒りを覚えずにはいられませんでした。そして、それをイメージさせたり増幅させたりさせるアコーディオンの音色！ハンセン病の過酷な生涯を初めて知りました。

さて、木下さんと合わせをする中で、楽

譜はあるものの、ベテランの木下さんに新参者の私では、テンポの感覚が合わずに、切るべきところが合わない。岡田京子さんの楽譜には管楽器の指定があります。それをヒントに、松本さんのアコーディオンを思い出し、台本を読みながら、ピアノの音色を作る練習をしました。が、なかなか…。やはり本番を重ねさせていただくしかない、九月末には、お忙しい中、木村快さんとともに伊那のわが家に来ていただき、葛谷夫妻はじめ友人たちの前で上演させていただきました。

初めてハンセン病のことを知る人もいたり、国政により患者さんたちの境遇が一層悲惨になったことを訴える語りにすすり泣きが聞こえます。

十一月十七日、三〇〇人のお客さんの前に、「故郷があつても故郷に帰れなかった方々のお話です」と始まり、淡々と語られるハンセン病の辛さ、痛み、やはり会場中からすすり泣きが聞こえてきました。治る病気を隔離して故郷と断絶させた国政。一度はそれを過ちと認めたものの今なお続く患者さんたちの苦しみ。会場の皆さんにも伝わったと思います。そして誰よりも私が一番それを痛感し、自分の生き方、暮らし方を、立ち止まって考えさせていただきました。ありがとうございました。

NPO現代座を支える人々

第二十二回 池田春寿さん

記 武本英之



いけだ・はるじ
1942年群馬県渋川市生まれ。
1964年群馬大学工学部電気科卒。
日立系の会社で科学研究・産業機器・医療機器の技術部門に関わる。
小平市民活動ネットワーク会員・元理事

『約束の水』稽古に参加して

東京・小金井市に隣接する小平市にお住まいの池田春寿さんが現代座と出会うきっかけのお芝居は「約束の水」だった。定年退職後、参加されたNPO小平市民活動ネットワークの知人からお芝居の事を知らされて稽古を見に行ったそうだ。稽古ではちょうど作者の木村快さんが演出をしていて、横で見ていると、快さんが「どうだった」と何度も要所ごとに感想を聞いてくるから、池田さんはびっくりしたという。折角だからと池田さんは思った通りを述べたようだが、それが後々お芝居に反映されていたのに気付いて二度びっくりしたらしい。

この「約束の水」は池田さんにとって忘れられないお芝居となった。「涙あり、笑いあり、歌ありの素晴らしいお芝居。初演でブラジルから来た娘役をやった真知尚子さんが歌っていた♪ホロホロホロと・・・という歌は今でも折に触れて口ずさみます」という。「半分はお芝居の良さ、後の半分は木村快さんの人間性や歴史観に惹かれてでしょう」と池田さんは現代座との関わりに快さんの存在

を挙げる。戦前の国民学校世代の人が子供の時どう世の中を見ていたかを語る快さんの独演「昭和のコドモが伝えたいこと」には池田さんは毎回参加されている。

「約束の水」以来、池田さんは現代座のお芝居はほとんど欠かさず、ご覧になっている。「武蔵野の歌が聞こえる」には驚きました。地域の人の力が合わさると、あれだけのお芝居ができるんですね」と感慨深げに語る池田さんだが、お芝居の初日と最終日の千秋楽と、必ず二度観るそうだ。「初日と最終日では役者さんの演技が違ってくるんです。最終日に向かって段々よくなるのでは」と上演する側にとっては有難いと同時に鋭く恐い指摘でもある。毎回現代座への多額のご寄付とチケットのご購入、この場をお借りして御礼申し上げます。

多彩・多忙な日々

池田さんはこういう人の生き様を真似てみたいな、と思えるような方のお一人だ。人生いろいろ、いろんな方がおられるが、池田さんは博覧強記の人ではなからうか。分かりやすい言葉では、物知り。一つ質問すると答えが十ぐらい返ってくる。その答えが単なる知識なら「そうですか」でお終いだが、池田さんの答えはいずれも経験の裏打ちがあつてウームと唸ってしまう。「ご出身はどこですか」と紋切り型の質問をしたら、「池田春寿の自己紹介へサラリーマン現役終了までの概略暦」と題したA4サイズの紙一枚を渡された。そこには、生まれから定年退職までと退職後の主要な足跡、それから最近の話題までがびっしり、かつ要領よくまとめられているからびつくり。



マウイ・マラソン参加は6回目。ゴール直前。

お生まれは群馬県渋川市、旧・赤城村というと国定忠治の里ですね。日立製作所系の会社を皮切りにB型肝炎を研究する会社に移られ、インドネシアのロンボク島にも技術協力

最後は東大の先生と癌マーカーを研究開発するベンチャー企業に関わるなど、お仕事は挑戦の数々だったよう。退職後は歌手の鈴木重子さんの歌った「イマジン」(ジョン・レノン作曲)に感動。その後援会から人と自然の関わりを考える「NPO PLANT A TREE PLANT LOVE」を知って会員となり、今、小平支局長としてブログで日々メッセージを発信中だ。

正月の松の内には毎朝真つ暗なう時半過ぎ、十五キロ以内の距離をジョギングし「日の出を見て帰ってくる」そうだ。「やせるにはどうしたらいいでしょうか」と聞くと「太るのはエネルギーが溜まっているだけ。どう発散させるかを考えればいい」とプラス指向のお答え。人生前向きに生きようと感じ入った次第です。(了)



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

現代座会館の仲間たち

「バンビーン」の子どもたち（2Fサロン）

毎週月曜日の夕方は「子どもクラブ・バンビーン」の日です。「バンビーン」は障がい児の放課後預かり事業の呼び名です。ボランティアのスタッフが支援学校まで車で迎えに行つて、お母さんがお迎えに来るまで、絵を描いたり、遊んだり、ビデオを見たりして過ごします。

小金井では放課後に障がい児を預かる事業所が少ないので、何とかしようと考えた知的障がい児を持つ親の会「小金井市手をつなぐ親の会」の有志と「さくら会」（小



金井市内で知的障がい者の就労訓練などを行っているNPO法人）とが協力してやっています。

親の会の馬場さんがNPO現代座の会員としてかかわってくださっていたことから、2階の部屋を使っていたようにになりました。夏休みなどは、お母さん達

もいつしよにお昼に焼きそばを作つて食べたりに、おしゃべりの場にもなります。

現代座は場所を提供しているだけなのですが、子どもたちの元気な姿に接するたびに、少しでも役に立てているならうれいと感じたい気持ちになります。

昨年の12月21日はクリスマス会でした。この日は東京学芸大学の障がい児教育の学生さん達のサークル「障害児と楽しく遊ぶ会・おこりんぼう」の皆さんがサンタクロースとトナカイさんの姿で来てくれました。サンタさんとトナカイさんからプレゼントをもらつて、子どもたちは大喜び。子どもたちだけでなくスタッフや現代座の私（木下美智子）にまでお母さん達がプレゼントを用意してくださいました。本当にありがたかったです。それからみんなで記念撮影をして、いつしよにおいしいケーキを食べました。この日は本当に楽しい一日でした。

この活動は2012年の4月から始めましたから、もう4年ほどになります。子どもはどんどん大きくなります。小学生だった謙人（けんと）君は4月からは高校に入るのだそうです。状況は変わつても、関わり続けていけるといいな、と思っています。

緑町ふれあいサロン（1Fサロン）

月に一度第3木曜日の午後は、現代座の1階から楽しそうな笑い声が聞こえてきます。地域の皆さんが集まつておしゃべりする「緑町ふれあいサロン」です。2013年秋から始まったこのサロンは福祉協議会のふれあい・いきいきサロン登録団体として会場費補助をいただいで始めました。今は地元の緑町第二町会の後援もいただいています。

毎月15人くらいの方が集まります。民生委員の古明地（こめじ）さんが声をかけてくださった一人暮らしの方や子育て中の方、退職したばかりの方。はじめての方も来てくださいます。ほとんど毎回楽しみにして集まってくくださるお馴染みさんです。

おしゃべりだけでなく、みんなで歌つたり、参加者の指導で詩吟を体験したりもします。そして現代座の俳優、長谷川葉月さんが文学作品を朗読する日もあります。

12月と1月のサロンでは「チエアー・ヨガ」という椅子に座つてやる高齢者向けのヨガを体験しました。指導は現代座の俳優でヨガ・インストラクターの東志野香さんです。東さんは「初心者向けヨガ教室」を現代座でやっていますが、最近高齢者のための椅子に座つたままでやるヨガにも取り組み始めました。そこで「ふれあいサロン」の皆さんに体験してもらつたのです。大事なことは自分の体の状態を感じる。普段は意識しない体の色々な部分を観察しながら、ゆっくり呼吸して静かに体を動かします。

「肩が楽になつたみたい」と評判も上々でした。



演劇サークル「夢さしの」公演（小ホール）

1月16日・17日

現代座ホールでは、いくつかの劇団や演劇サークルが公演しています。その中で一番長く現代座ホールを使ってくださっているのが、地元の演劇サークル「夢さしの」です。今回はホールではなく3階の小ホールを使って、コントと朗読劇の公演をしました。

演劇サークル「夢さしの」は1977年に小金井市の公民館青年演劇教室の終了後、引き続き演劇をやりたいという人たちが集まって立ち上げたサークルで、創立して39年になります。

最初からかかわって、長らく代表をつとめ引っ張ってきた山田耕太郎さんが、昨年3月に亡くなりました。7月には追悼公演として彼が大好きだった「ら抜き

殺意」を現代座ホールで公演しました。

そして今回は二つの朗読劇と六つのコントに挑みました。

劇団員の二世、4才の男の子も出演しました。

これから

も頑張ってい

てほしいサー

クルです。



りんどうの会（地下ホール）

構成劇『人はなんで生きるか』

1月23・24日

りんどうの会は朗読・合唱・演奏を楽しむグループです。今回は3F小ホールでの朗読「有島武郎作『一房の葡萄』」でしたが、

今回は参加者が増えて、地下ホールで公演することになりました。

今回は杉山龍の

構成演出によるトルストイの民話『人はなんで生きるか』

です。杉山龍は元現代座劇団員。合

唱指導の津田直美さん、キーボード

の津田哲子さんは3F小ホールで定期

的に津田「リトル・コンサート」を開催

しております。



写真撮影・横田敦史

そのほか、11月～1月の地下ホールでは劇団「二トロキユー」の『ワーニヤ伯父さん』、地元演劇サークル「劇好サポテン・アミーゴ」による『新・羅生門』、若者たちの劇団ギジレンの創作劇『真鍮の月』などの公演が開催されました。

現代座会館 11月～1月 活動日誌

11月1日 「現代座レポート64号」発送作業

9日 ワーカーズコープ三多摩役員来訪

19日 「緑町ふれあいサロン」

29日 「昭和のコードモが伝えたいこと」雑談会

30日 宮崎県高千穂より甲崎公雄氏来訪

12月7日 ワーカーズコープ相良氏来訪

17日 「緑町ふれあいサロン」

20日 「出航」ビデオ上映・忘年会

28日 蔦谷栄一氏夫妻来訪

1月14日 2階3階トイレのドア取替工事

17日 「ターミナル」ビデオ上映・新年会

19日 「月刊JA」インタビュ取材に来訪

21日 「緑町ふれあいサロン」

26日 ワーカーズコープ三多摩役員来訪

【現代座ホール】

11月17～23日 ニトロキユー「ワーニヤ伯父さん」公演

12月2日 希望舞台「焼け跡から」稽古

12月3～6日 劇好サポテンアミーゴ「新・羅生門」公演

12月9～13日 ギジレン「真鍮の月」公演

1月22～24日 りんどうの会「人はなんで生きるか」公演

【三階小ホール】

12月13日 劇団「希望舞台」稽古

12月20日 津田「リトル・コンサート」

11月～1月 「りんどうの会」稽古

1月15～17日 演劇サークル「夢さしの」公演

隔水曜日 朗読教室

毎火曜日 東志野香のヨガ教室

【定期使用 二階サロン】

毎日曜日 早稲田ラジオスクール（学生支援）

毎月曜日 子どもクラブ・パンピーノ

毎水曜日 熟年パソコンサークル

隔木曜日 熟年講座

NPO現代座のお知らせ

TEL 042-381-5165
FAX 042-381-6987うたと語り
「遠い空の下の故郷
～ハンセン病療養所に生きて～」日時 : 2月28日(日) 14:00～
場所 : 現代座3F小ホール
参加費 : 2000円 40名の予約制です人権を考える住民の集い
「島内・島立ふれ愛コンサート」日時 : 3月5日(土) 14:00～
場所 : 松本市音楽文化ホール

小金井市立緑中学校 卒業記念講演

日時 : 3月10日(木) 10:30～
場所 : 緑中学校体育館東志野香 ヨガ教室
「チェア・ヨガ教室」始めます椅子に座ったままやるヨガです。
シニア世代の方、膝などが痛くてもできます。
このヨガは、運動的な要素よりも、精神的な安定や癒しを
目的としています。
それによって免疫力低下を予防する効果も期待できます。毎週火曜日 14:00～15:15
参加費 1000円(1回)

NPO 現代座

誰でもできる朗読教室

朗読教室1期生の発表会を開きます

日時 2016年3月23日(水) 13:30開演
入場無料 (開場は開演の30分前)
会場 現代座3階小ホール

第2期 受講者募集!

基礎訓練から舞台での発表まで(12回講座)
開講期間 2016年4月～9月(6ヶ月間)
日時 毎月第2・第4水曜日(原則)午後1:30～4:00
(人数によって終了時間変更あり)
全12回、最終月の9月は
舞台稽古と発表会本番になります講師 長谷川葉月 募集定員 10名
受講料 18000円(全12回、発表会費用も含む)

◆近代から現代の文学作品などをテキストにした初心者向けの講座です。朗読に大切な発声の技法と、口をきれいに動かすための基礎訓練を取り入れ、朗読に適した声作りをしていきます。まずはテキストを全員で読み分けして作品を読む楽しみを味わいましょう。

8月には各自が発表作品を練習し9月にその成果を舞台上で発表しましょう。

お申し込みはNPO現代座まで
第1期の教室の見学ができます。ご連絡ください。

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)
 一般会員 3,000円
 協賛会員 10,000円(1口以上)
 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座